

アフリカ映画の動向



三菱UFJ リサーチ&コンサルティング
政策研究事業本部 国際研究室
近藤 碧

2017年、日本では内閣官房副長官を中心に「映画産業の海外展開に関する検討会」¹が立ち上げられ、日本の映画産業の振興と海外展開に向けた検討が進められています。また2018年には、日本の映画配給会社の最大手である東宝が、「TOHO VISION 2018 東宝グループ中期経営戦略」において、「海外市場開拓のビジネスモデルの確立」を重点領域の1つに掲げています²。

経済的豊かさだけでなく文化的豊かさや幸福度が注目される中、映画はエンターテインメントや芸術文化分野における代表的なコンテンツ産業の1つであります。昨今、新興国における富裕・中間層のボリューム拡大と共に、デジタル技術やテレコミュニケーションの発達により、新興国においても映画界が盛り上がりつつあり、産業としての萌芽が見られつつあります。

筆者は2018年8月にアフリカのモロッコに渡航し、映画にまつわる現場を訪れてみました。現地で見聞したことを踏まえ、本稿では、アフリカ映画の動向について紹介したいと思います。

世界の映画市場 – 新興国の参入が加速化

世界の映画市場規模³について、映画興行収入額で国際比較をすると、米国、中国がそれぞれ年間100.9億ドル、70.8億ドルの市場規模となっており、この2カ国で世界全体の映画市場の45%を占めています⁴。これは、各国における映画館入場料の売上額から、映画興行収入額を計算したものであり、映画館数で世界の23%を占める映画大国の米国（映画館数：5,628館（2015年）で世界1位）と、10億人の人口を擁する中国が世界の映画市場においては二大巨頭となっています。

中国では、2010年から2015年にかけて、映画市場規模が約4.7倍に拡大し（15億ドル（2010年）から70.8億ドル（2015年））、世界第2位に躍り出ていますが、昨今、映画市場における国際的な動向は大きく変化しています。スマートフォンやデジタル市場の席卷により、先進諸国では1年間の映画館来館回数が毎年減少傾向にあり、例えば米国では、2017年の映画館来館者数は1人当たり3.6回⁵にとどまり、金融危機が全米を直撃した2008年の4.2回を下回る数字となっています。他方、デジタル技術の発展により手軽に映像を撮影できるようになったことや配給のデジタル化、また、通信のグローバル化により、新興国を中心に映画産業が急速に発展するようになりました。

新興国の動向を見ると、映画興行収入額（2015年）では、インドが日本に次ぐ世界第5位、メキシコが第10位にランクインしています。また、映画市場動向を測る一要素とされる各国における映画の制作本数（2015年）を見ると、図表1のとおり、インドは年間約2,000本で世界第1位、それに次いでアフリカのナイジェリアが年間997本と米国の約1.3倍の制作本数となっています。また、10位以

¹ 首相官邸ウェブサイト、「映画産業の海外展開に関する検討会議」（http://www.kantei.go.jp/jp/singi/eiga_kaignaitenkai/）

² 東洋経済オンライン「東宝、一度諦めた海外進出に再挑戦する理由」（2018年5月14日記事）

（<https://toyokeizai.net/articles/-/218689?page=3>）

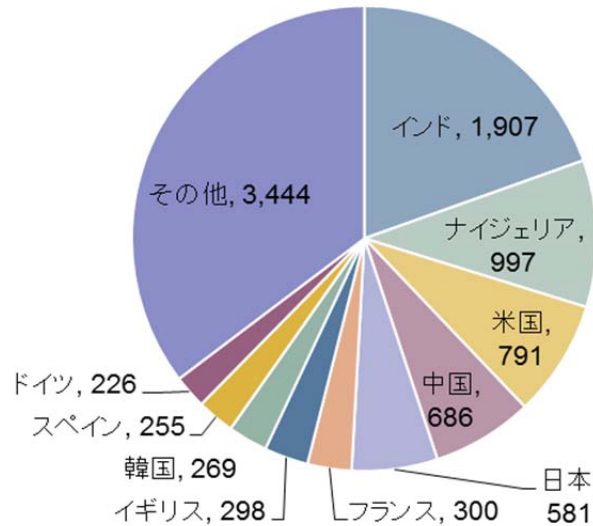
³ 映画は上映時間60分以上の商業上映用の長編映画が対象でフィクション、ドキュメンタリー、アニメを含む

⁴ UNESCO Institute for Statistics, UIS. Statの2015年のデータに基づく

⁵ アメリカ映画協会（MPAA）ウェブサイトの公開情報に基づく

下の「その他」には、アルゼンチン（2015年度12位、年間182本）、メキシコ（13位、140本）、トルコ（14位、137本）、ブラジル（15位、129本）が世界上位15位内にランクインしています。このように、中国だけでなく、アフリカ、アジア、南米の新興国を中心に映画市場が活況に盛り上がってきていることが分かります。

図表 1 映画の年間制作本数の上位 10 カ国（2015 年）



出所：UNESCO Institute for Statistics, UIS. Stat の 2015 年データを下に作成

注）制作本数＝商業上映用に制作された映画数で国際共同作品を含む。

アフリカ映画－ナイジェリアの巨大映画産業が牽引

新興国の映画市場の中でも、本稿ではアフリカに着目してみたいと思います。

アフリカでは、宗主国フランス政府の文化政策の影響で、フランス語圏の西アフリカ諸国の一部で映画産業が小さく花開いてきた歴史があります。しかし、機材・人材の不足や配給システムの未発達により、庶民の娯楽としては定着せず、映画産業は規模も小さく長い間発展してきませんでした。そのような中、1990年以降のデジタル技術の発展により、低予算での映画の制作・配給が可能となり、アフリカ大陸各地で若き映画人たちが映画の制作に乗り出し、産業としての萌芽がみられるようになります。

アフリカ諸国の中でも、映画の制作・配給・消費と一連の映画産業が大規模に成立した例として、ナイジェリアの映画産業が挙げられます。前述したように、ナイジェリアは、インドに次ぐ世界第2位の映画制作本数で、人口比当たりの映画制作数では世界1位を誇り、約6億ドル⁶と言われる巨大な映画市場が存在します。米国の「ハリウッド (Hollywood)」、インドの「ボリウッド (Bollywood)」に次ぐ世界第3位の経済規模を持つ市場とも言われ⁷、ナイジェリアの“N”をとって「ノリウッド (Nollywood)」と呼称されています。

このように、世界第3位の映画市場とされるナイジェリアですが、実は国内には映画館はわずか33館⁸しかありません。しかも、入場料は非常に高額であることから、一般市民にはアクセスが難しいものとなっています。それにもかかわらず、ノリウッド映画の大半が国内で消費されており、

⁶ United States International Trade Commission (USITC), “NIGERIA’S FILM INDUSTRY: NOLLYWOOD LOOKS TO EXPAND GLOBALLY”, October 2014

⁷ Funke Osae-Brown, “Nollywood improves quality, leaps to N1.72trn revenue in 2013”, Business Day Newspaper Online, 24 December 2013

⁸ Cinema Treasures, LLC ウェブサイトのデータに基づく

ナイジェリアの人々にこれだけ映画が愛されるようになった背景としては、その流通システムにあるとされています。ナイジェリアでは、テレビ視聴が爆発的に普及した 1980 年代、街中ではテレビ番組のビデオコピーが売られ、人々はホームビデオとして家で視聴することがブームとなりました。このホームビデオのブームを見た当時の映画関係者や配給会社らは、制作した映画を DVD などのメディアで流通させる仕組みを作り、国民が日常的に映画に触れ・楽しむという文化を醸成することで、映画産業を振興させることを思いつきました⁹。現在、ナイジェリアでは、映画制作後に即ビデオ化されるという流れが組み込まれており、人々は映画館に行かずとも、売店で映画のビデオを購入し、手軽に視聴することができるようになってきました。収益性の低さや著作権に係る課題等、問題も多く指摘されましたが、結果的には映画文化が国民に浸透し、アフリカ全域のみならず海外に配信される一大産業にまで発展しました。

映画産業が牽引し、ナイジェリアにおけるエンターテインメント産業の GDP 寄与率（2013 年）は約 1.4%（米国における同比率は 3%、インドは 0.5%）とされ、大きな経済効果をもたらしています¹⁰。米国国際貿易委員会の報告（2015 年）によると、ナイジェリアの映画産業は農業に次いで雇用を生み出す大規模産業とされ、昨今ではアフリカ全域で視聴を拡大しているだけでなく、海外をターゲットにし全世界での配信拡大が図られています。

国を上げて映画産業を推進 – モロッコ

このように、ナイジェリアのノリウッド映画が巨大映画産業として注目されますが、最近では、ガーナやケニアが映画の生産国として注視されている¹¹他、アフリカ大陸全域で映画文化の振興や映画関連産業の発展を図ろうとするさまざまな動きが見られます。例えば、2005 年からは、アフリカ文化の振興とアフリカ映画界の躍進を目的とした「アフリカ映画アカデミー賞（African Movie Academy Awards）」が開催され、約 700 本の応募がある¹²映画祭へと急成長しています。昨今では、ドキュメンタリー作品や娯楽映画の製作も盛んになり、国際映画祭で高く評価されるアフリカ映画作品も出てくるなど、質の高さを備えたアフリカ映画の作品群は「ニューウェーブ（New Wave）」とも呼ばれ¹³、注目が集まっています。

このような流れの中、映画産業の振興を積極的に推進するアフリカ諸国の 1 つとして、モロッコが挙げられます。

モロッコでは、宗主国フランスの影響で映画産業が小さくも花開いていましたが、2000 年代以降、モロッコ政府は映画産業の振興を積極的に取り組んでいます。2001 年、映画文化に親しむ機会を提供することを目的に、現モロッコ国王の発案でマラケシュ国際映画祭（Marrakech International Film Festival）が開始されました。同映画祭では、ムーレイ・ラシッド王子が総裁に据えられ、国を上げて映画産業の発展に取り組んでいることがうかがえます。また、映画監督の育成や映画振興のための政策として、さまざまなコンペティションが実施され、若手監督に約 400 万円の賞金を贈るイベントも開催されています。

2004 年には、サハラ砂漠の入り口であるワルザザードに、世界最大規模の敷地面積を誇る映画スタジオ（CLA STUDIOS）が建設され、ハリウッドと姉妹都市協定を結ぶ映画の町として、一躍有名となりました。この映画スタジオでの映画制作本数は約 200 本ともされ、近年では、『キングダム・

⁹ Nigerian International Film Consortium ウェブサイト “History of Nollywood”

¹⁰ United States International Trade Commission (USITC), “NIGERIA’S FILM INDUSTRY: NOLLYWOOD LOOKS TO EXPAND GLOBALLY”, October 2014

¹¹ 江木慎吾「ノリウッド映画の行方」、朝日新聞オンライン（2012 年 6 月 25 日記事）
<http://www.asahi.com/special/news/articles/TKY201306240354.html>

¹² African Movie Academy Awards 公式ウェブサイトのデータに基づく

¹³ Majek, Susan, “Interview: Lonzo Nzekwe Talks ‘Anchor Baby,’ Truth In Cinema, The New Nollywood & More...”, 6 August 2013

『オブ・ヘブン』(2005年)や『バベル』(2007年)、『ミッション:インポッシブル第5弾』(2015年)などの大作映画の誘致に成功しています。撮影スタジオの規模や誘致している作品の多さから、モロッコは「アフリカのハリウッド (Africa's Hollywood)」とも呼称されています¹⁴。

モロッコ映画の推進と規制を行う業界団体「Centre Cinématographique Marocain」によると、外国映画の制作誘致による国家収入は約3,300万€(約42.7億円)(2016年)とされています¹⁵。鉱物資源に乏しいモロッコにとって映画産業による雇用と収入は非常に貴重であり、モロッコ政府は映画文化の醸成や映画人材の育成、国際マーケティング含め、映画産業の振興に向けたさまざまな方策を展開しています。



(左右ともに)ワルザザードにある世界最大規模の映画撮影スタジオ (CLA STUDIOS)。
撮影：筆者



ワルザザードにある映画ミュージアム。国を揚げて映画文化や映画産業の振興を図っていることがうかがえる。

撮影：筆者

アフリカでは、映像製作のデジタル化が大陸全域に広がり、従来見られなかったドキュメンタリーや社会問題を問う作品の製作も行われるほか、先進諸外国の映画界との連携や交流、デジタルコンテンツの配信など、新しい時代の映画のあり方に沿う道が模索されています。

日本は、歴史的に映画興行収入世界2位の地位を長く誇ってきましたが、第4位(2015年)に転落した昨今、映画の国際交流の活発化や新興国との連携が提唱されています¹⁶。アフリカ映画の動向を含め、今後も新興国における映画産業や映画市場の動きに注目していきたいと思います。

<筆者略歴>

JICA 職員を経て2012年に三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 国際研究部(現国際研究室)に入社。JICAではアフリカの教育・保健分野プロジェクト、新興国向けの円借款案件形成、中南米向けODA援助計画策定を担当。現職では、児童福祉・障害者福祉などの福祉政策、開発援助政策・評価などを行う。東京外国語大学卒、一橋大学国際公共政策大学院(国際・行政修士(専門職))卒。

¹⁴ Sophie Morlin-Yron, "Why Morocco is Africa's little Hollywood", January 6, 2017 (<https://edition.cnn.com/2016/11/07/africa/morocco-hollywood-films/index.html>)

¹⁵ Siona Jenkins, "Morocco's oasis of foreign film making in the desert", November 4, 2017 (<https://www.ft.com/content/8222b7e8-5c25-11e7-b553-e2df1b0c3220>)

¹⁶ 首相官邸ウェブサイト、「映画産業の海外展開に関する検討会議」(http://www.kantei.go.jp/jp/singi/eiga_kaigaitenkai/)